

平成28年度 MieMu の活動と運営の全体の内部評価の概要

計画期間（3年）：平成26年度～平成28年度

内部評価結果（概要）

・総合博物館として自然と歴史・文化まで様々なテーマの展覧会を計10本開催することで、展示テーマに応じて新規来館者を獲得するとともに、年間を通じてリピーターも確保することができた。年度を追うごとに、リピーターの割合が増えていることから、当館の活動に理解と共感を示していただけの方の存在を証明できると考える。展示観覧者アンケートからは、お子様から高齢者の方まで幅広い世代にご覧いただき、満足度の4段階評価のうち、最も高い「満足」が約49%以上（「やや満足」を合わせると80%以上）を占めていることが確認できた。また、広報・営業活動により、中勢地域を中心に MieMu の認知度（77%）を高めるとともに、企業パートナーシップ会員との連携事業や、長期会員を増やすことができた。

・一方で、平成27年度と比較して本数は減ったものの（平成27年度14本）依然として展覧会数は多く（企画展示5本、交流展示3本、トピック展示2本）、多くの経営資源を配分せざるを得ない結果となった。また、コーポレーション・デーをはじめ多様な主体との連携事業についても積極的に取り組んできたが、博物館活動全体から見ると展示・交流事業の割合が大きくなり、資料収集や調査研究の割合が少なく、長期的な活動に支障を来す恐れがある。会議の開催見直し（運営ミーティングの廃止）等、活動の効率化を図り経営資源の再配分を行おうと試みたが十分ではなかった。

・平成27年度の評価結果を受けて、一部事業の内容変更（みんなでつくる博物館会議）や、平成29年度からの組織体制の変更を行い、より効果的に博物館活動を行えるよう改善した。だが、前年度の評価士によるレポートにもある通り、PDCA サイクルのアクションについて、短期的かつ担当レベルで可能なものに偏る傾向があり、組織全体として業務を管理することが課題である。